



長い連休で県外から入り込み

GW観光客2.1%増

最多は別府地獄めぐり

ツーリズムおおいたは12日、ゴールデンウィーク期間中(4月29日～5月6日)の観光動向調査の結果を発表した。県内の主な観光施設20カ所の入場者数は計39万1563人で、前年の同期間と比べ2.1%(7981人)増えた。曜日の並びが良く、前年より休日が1日増えて5連休になったことや、県外からの入り込みが多かったことなどが要因とみられる。



調査結果を発表するツーリズムおおいたの宮崎敬マーケティング事業課長(左)12日、県庁

調査対象は屋外15施設、屋内5施設。入場者数が最も多かったのは別府市の地獄めぐりで5万1300人(前年比3.5%増)。家族連れやグループ旅行などの国内客が多かったという。

次いで、杵築市のふるまーパークが4万6850人(6.7%減)。竹田市のくじゅう花公園が4万352人(22.8%増)。大分市の大分マリーンパレス水族館うみたまごが3万5322人(2.6%増)。

伸び率のトップは、8079人が訪れた大分市美術館で138.5%。絵本作家の企画展を開催しており、人気を集めた。

ツーリズムおおいたマーケティング事業課の宮崎

敬課長は「SNS(交流サイト)など情報発信に力を入れていた施設の入場者数が伸びているようだ」と説明。フェリーや飛行機を利用した県外客が増えたこともプラスになったと述べた。

(磯崎恵)

海の便利、大幅増

ゴールデンウィーク期間中、空と海の便の利用客は前年より大きく伸びた。

ツーリズムおおいたのまとめ(4月29日～5月6日)によると、関西や四国と結ぶフェリー7航路で県内を訪れた人は4万8143人。前年と比べ30.2%増となった。

大分空港は国内線の降客数が2万2296人で、12.2%増だった。

一方、県内の鉄道と高速道路の利用状況(4月25日～5月6日)は、前年並みとなった。

JR九州大分支社によると、日豊、久大、豊肥各線の県内区間の特急利用者



イルカのショーに歓声を上げる観光客12日、津久見市四浦のつくみイルカ島、撮影 大海すみれ

(上下線計)は前年から1.9%増の13万7343人だった。ピークは下りが5月2日、上りが6日となった。西日本高速道路によると、大分自動車道九重インターチェンジ(IC)―湯布院IC間の交通量(上下線計)は1日平均2万4000台で前年とほぼ同じだった。県内で5き以上の渋滞発生はなかった。

(池田美香、磯崎恵)



〔問①〕 昨年のゴールデンウィーク期間の大分県内主要観光施設20カ所の入場者数を、記事を読んで算出してください。

() 人

〔問②〕 ゴールデンウィーク期間の移動手段による違いをまとめましょう。次の文の () を埋めてください。

特に伸びが大きかったのは、関西や四国と結ぶフェリー7航路で () 人が利用、対前年比30.2%増だった。

大分空港の国内線の降客数は22296人で () %増だった。

J R九州の大分県内区間上下線合計の特急利用者は () %増だった。

〔問③〕 今年のゴールデンウィークの観光客数が前年より増えた要因として考えられていることを、記事から読み取って書いてください。

〔問④〕 記事では「SNSでの情報発信に力を入れている施設の入場者数が伸びている」という分析があります。大分県の観光を盛り上げるために、どのような情報を発信すれば効果的だと思いますか。具体的なアイデアを書いてください。
